



インタビュー
Interview

同じ病気で悩む人に 勇気を与えたい

輝いている人

脳脊髄液減少症と闘いながら、兵庫県で行われる予定の全国高校文化連盟将棋新人大会への出場を決めたのが、総社高校2年生の河本七海さんだ。昨年10月に行われた高等学校秋季大会で3位の成績を収め、全国大会への切符を手に入れた。

脳脊髄液減少症は、脳脊髄を覆っている硬膜が損傷を受け髄液が漏れることで、頭痛や記憶力低下、うつ症状など、さまざまな症状を引き起こす病気。河本さんは中学2年生の時、家の中で頭を打ったことが原因で発症。治療や再発を経て、現在も闘病は続いている。

「見た目は健常者と変わらないので、理解されにくいところが辛い部分。多くの人に病気について知ってもらいたいです」と話す。自身の闘病体験を漫画にしてSNSで公開するなど、啓発活動にも取り組んでいる。

活動にも取り組んでいる。小学生のころ、双子の弟・康誠さんの練習相手をしたことがきっかけで将棋を始めた。発症し運動ができなくなった後も、将棋の腕は磨き続けていたという。現在は囲碁将棋部に所属して、上達のため努力を続けている。「一緒に活動する新人部員を募集中。多くの人に部室を訪れてほしい」と話す。

全国大会での目標を尋ねると、「まずは決勝トーナメント出場を目指す。私がんばることで、同じ病気に人に勇気を与えられれば」と意欲を見せる。

将来の夢については、「病気になるって、たくさんのお優しさに支えられました。今度は、私が看護師になって恩返ししたい」と教えてくれた。彼女なら、これからは優しさのバトンをつないでくれるだろう。

全国高校文化連盟将棋新人大会に出場する

河本七海さん（総社高校2年）

カメラ フォトニュース まちの話題

心がこもった年賀状に感激

チュッピーにたくさんの年賀状

全国からチュッピーに年賀状が届き、1月15日まで市役所1階セントラルロビーに展示されました。送り主は、チュッピーと交流した子どもやファンなど。活動を応援する声や、今年も会いたいという思いなどが寄せられました。15日までに届いた268通の年賀状には、チュッピーからの返事が送られました。



①届いた年賀状を市役所でお披露目 ②返事を書いてポストに投かんするチュッピー

●ミニフォト

認知症当事者の気持ちを知る



体験から得た思いを伝える

12月17日、市民会館で認知症に関する講演会が開催されました。若年性認知症当事者である丹野智文さんが講演。発症後から現在までの体験談や、今までどおりの生活が送れるよう支援してほしいという思いなどを語りました。

赤米の伝統行事をつなぐ



一升の餅を担ぎ駆け下りる

赤米の収穫を祝う霜月祭が12月29日、新本の本庄・新庄国司神社であり、新庄国司神社では「かけりもち」が行われました。新庄地区の子どもがフクラシの木にくられた餅を担ぎ、神社と神田跡を往復しました。

希望にあふれる一年を願う



初日の出をカメラに収める

新しい年の始まりに当たり、元旦福山登山が行われました。午前6時にJA岡山西清音ライスセンターを出発。頂上では、今年の干支が描かれた記念絵馬が配付されました。参加者は、ご来光に明るい一年を願っていました。

綱嶋さん 100歳おめでとう



家族に祝福される綱嶋さん

綱嶋勝己さん（岡谷）が12月19日に満100歳の誕生日を迎えられ、市から記念品が贈られました。80代まで木工の仕事に励み、お盆づくりなどを続けてきたという綱嶋さん。長寿の秘訣は、肉が好きでよく食べることだそうです。

長年の地域貢献を表彰



表彰状を手にする岡さん

岡弘さん（三須）が「地縁による団体功労者総務大臣表彰」を受賞し、12月17日、市長室で伝達式が行われました。町内会長を15年以上務めたほか、老人クラブやふれあいサロンの設立などに貢献したことが評価されました。

誰もが尊重される社会へ



さまざまな人権問題に向き合う

12月19日、総合福祉センターで「男女共同参画フォーラム」を開催しました。舞台女優の谷ノ上朋美さんが、マイノリティに光を当てた一人芝居を上演。ありのままの自分で生きる大切さについて伝えました。